＜著者略歴＞
根本正義（ねもと まさよし）

1942年　東京都生まれ
　　立正大学大学院修士課程修了
現　在　大東文化大学講師，大東文化大学第一高等学校専任講師，東京教育専修学校非常勤講師，立正大学保育専門学校講師，日本児童文学学会会員，日本近代文学会会員，日本児童文学者協会会員
著　書　『鈴木三重吉と「赤い鳥」』（鳩の森書房　1973）
　　『幼児教育のための児童文学』（高文堂出版社　1974）

著者承認
検印省略

昭和児童文学論　　© 1975

昭和50年8月25日発行　　¥ 1,750.

著　者　根本正義
発行者　手島正治

発行者　株式会社 高文堂出版社
東京都千代田区神田小川町 2—4
芙蓉ビル　郵便番号 101
電話東京（293）9491～3
振替口座番号 東京97250番

落丁・乱丁その他不良品がありましたら，本社でお取りかえ致します。　　印刷・(有)工文社

3091—759211—2282

昭和児童文学論

根本正義著

高文堂出版社

まえがき

これまで書きためてきた児童文学に関する研究をまとめることになった。それらを整理してみると、児童文学の歴史に関するもの、作家と児童文学に関するもの、児童文学論に関するものに分類することができた。それらの研究を三部に分けてこの本に収録した。

児童文学の研究について、さまざまな課題をかかえながら、それらを果たせずにいる。たとえば児童文学の名称の問題についても、ここ十数年来〝日本児童文学〟という言葉が使用され、数多くの評論書、研究書にこの呼称が付されている。こうした名称の問題についても検討してみる必要があるはずだ。

私自身もこの研究書に収録した「文学における児童文学の位置」という研究で、そうした問題へのアプローチを試みてはみたが、それも試みでしかなかった。そうした意味をも含めて、この本の題名をあえて『昭和児童文学論』とし、〝日本児童文学〟という言葉の使用をさけた。

この本に収録した研究は明治期の児童文学の問題に触れているものもあるが、昭和期のものが中心になっているという意味で、あえて〝昭和児童文学〟という名称を用いさせていただくことにする。その意味ではいわば〝近代の児童文学〟ということになるわけだが、日本の児童文学にとっての近代

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

はいつか、という課題もかかえているので、そうした言葉もさけた。

最後に、このたびの出版についても高文堂出版社の手島氏にお世話になることになった。営業面その他でご迷惑をおかけするかもしれないこの本の出版をおひきうけいただいたことにお礼を申しあげてまえがきとする。

昭和五十年二月

根本　正義

目　次

まえがき

I

一、明治三十年代の児童文学……10
(一) 小波「世界お伽噺」執筆の前後……10
(二) 巌谷小波……37
1　巌谷小波小論……37
2　小波の「少年文学」と「幼年文学」……42
3　「猿蟹後日譚」論……47
二、昭和初期の児童文学……53
(一) 童謡を中心とした昭和初期の児童文学……53

三、昭和十年代の児童文学……79
(一)昭和十年代の児童文学と浅野晃……79
(二)浅野晃の児童文学観……99
四、戦後の児童文学……113
(一)「ノンちゃん雲に乗る」の周辺……113
(二)小川未明の戦争と児童文学……145

II

五、小説に描かれた子ども……164
——北杜夫と吉行淳之介と——
六、作家と児童文学……195
(一)「赤い鳥」と芥川龍之介……195

(二) 芥川龍之介と吉田絃二郎……198
(三) 「赤い鳥」と坪田譲治……202
(四) 高村光太郎の児童文学……210

Ⅲ

七、児童文学論……218
(一) 児童文学の諸問題……218
(二) 現代児童文学批判……223
——児童観の変遷と現状——
(三) 現代児童文学の諸問題……229
(四) 文学における児童文学の位置……238

I

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

一、明治三十年代の児童文学

(一) 小波「世界お伽噺」執筆の前後

巖谷小波の「世界お伽噺」は明治三十二年一月に、第一編「世界の始」(旧約全書創世紀)「人間の始」(ギリシャ神話およびシュワード「太古伝説集」)を刊行後、明治四十一年二月に第百編「南犬北犬」(「二匹の小犬の話」)「魔法草」(レンツ「アラスカ人種口碑伝説」から「善き土人の話」)を刊行して完結した。明治三十年代の児童文学の中心は、この小波の「世界お伽噺」にあったといえよう。この叢書は毎月一編の刊行によって全百編で完結した。しかし、全百編といっても一編のなかに短編がいくつか収められているので、実際は百四十一編の作品が刊行されたことになる。

木村小舟氏は『改訂増補少年文学史明治編下巻』(童話春秋社)のなかで、「世界お伽噺」の発刊について、

「編者は、如何なる用意を以て、その採択と執筆とに手を下そうとするのか。蓋し前人未到の地域を拓く、快は即ち快なりと雖も恐らく前程に横たわる障碍と困難とは、実に容易ならぬものであろう。」

と述べている。また、後に引用した「世界お伽噺」の序についても氏は同著のなかで、

「『日本昔噺』に於ける洒落沢山の序文に比すれば、重厚に、お伽噺に対する用意を明瞭ならしめ、特に曩日武島羽衣の質問に答えたる点を実行に移さんとする希望さえ窺い知られ、正に日本のお噺文学界に、一大炬火を点ずるの概があった。」

と述べている。

これらでいかに各方面から「世界お伽噺」が注目をあびていたかを知ることができよう。

「日本昔噺」の頃の小波には、なにか近世の戯作者的な感覚があったようだ。作品の題名等もそうした感覚でつけていたようである。しかし小波自身がこのお伽噺を計画した時期は「日本昔噺」の頃よりは、児童文学に対する考え方が確実なものになっていったとみることができるわけである。

さて、先の引用文のなかにある武島羽衣の質問というのは、明治三十一年四月の「帝国文学」に「少年文学」と題した文章が載ったそれである。

「単純白紙の如く、飄動春色の如き少年の頭脳は染むる所の色に従って紅白黄黒唯だ心のままに、触るる所の力に曲りて大小伸縮意に応じて動き易かるべき時代なれば之を相手なる作者にあっ

ては非常の細心用意を要すべきは勿論なり。余輩は既に本誌に於て我国在来の『桃太郎』『猿蟹合戦』『かちかち山』等の諸小話は事理治白に過ぎ、着想又浅薄にして、現実的、小刀細工的、鳥面根性的の臭味を脱せざるを説き、此派の代表的なる蓮山人に向って嘱望するところありき。爾来今に至る迄山人が忠実なる細筆は暫しも休む時なく、頗る余輩の心を得たりと雖ども、其着想と其用意と尚お遺憾なしとは言うべからざるものあり。

余輩は其の物語無邪気にして無害なる点は確かに之を認むるに吝ならず。然れども単に是れ消極的の用意のみ、何ぞ一歩を進めて、積極的に有益なる物語を作為せざる。何ぞ中に有益なる教誨を含蓄せしめ健全醇正なる観念を鼓吹せんことを力めざる。是れ頗る困難の事には相違なきも亦決して為し難きことにあらず。苛も少年の慈母たり、教師たり、伴侶たるを以て任ずる以上は単に鼠が餅を盗み、玩具が馳せ出づる等の無意味なる道化話をなして足れりとはすべからざるなり。

次に余輩は其物語の軽妙にして一種の面白みを有する点をも認むるに吝ならず。然れども是れ区々たる小天地の面白み、微々たる小胸宇の可笑しみに過ぎず。其大なるに笑わしむるにあらずして其小なるに眼をひくのみ。其変倪奇怪なるに驚かしむるにあらずして其微細精微なるに心を動かすのみ。地球の外に大飛躍を試むる大鵬の壮図にあらずして垣墻間に僅かに三竿の高さを誇る燕雀の仕業のみ。彼は致底園池の蓮なり。滄溟の巨浪にあらざるなり。

余輩が渠に不満なるは実に此二欠点にありとす。然れども思うに後者は渠が根本的の短所にして、余輩が今如何に注文すとも俄に其特性の許さざるものあらん、但だ前者に至っては其用意如何に存ずべきを信ず。尽し能わざるにあらず、為さざるの弊のみ。今や我国には少年の伴侶たるメル

ヘンの作者は山人を措て外に求むべからず、為めに之を望むところも亦尠なからず。余輩は断じて山人が一短を捕えて他の得所をも排斥し去らんとするものにはあらず。」

これらに対して小波は「メルヘンに就いて――武島羽衣に与う――」と題して相当長い文を寄せている。羽衣は小波の物語が消極的であり、もっと積極的な有益な物語を作るべきであり、無意味な道化話を作って満足すべきではない。また、おもしろみの面から考えれば、なんらおもしろみのないつまらない作品である。という二点をあげている。この質問に対する答えの結論を引用すれば次のようなことになる。

「元来教育家には無之候間、直接に少年の師たらん事は毫頭望み不申候えども、間接に彼等が友たらん事は、好んで天職とする処に御座候。而して、其畏友たらんより、寧ろ親友たらんを、欲し、『恐い叔父さん』たらんよりは『好い兄さん』たらんを希うものに候。

随て作物の上に於ても、所謂御談議たらんより、矢張り御はなしたらんを期し、而も其御はなしに依て、知らず識らずの間に、少年の頭脳に余裕を与え、其胸宇に豁大ならしむるを得ば、以て能事足れりと存じ候。

されど、必ずしも寓意、教訓の筆法を、絶対的に排斥する者には無之、時として之を用うるも、そは忠孝仁義等のみの道徳主義を採らず、寧ろ尚武冒険等の腕白主義に依らんと欲する者に御座候。右御承知被下度候。終に一言申上候。元来メルヘン即ちお伽噺少年文学の類は、本邦文壇の別架に置かれ、批評の風は一切此辺を吹かず、所謂治外法権の有様にて、申せば甚だ気楽なる地位に

は立ち居り候ものの、斯くしては又、何とやら継子扱いを受くるようにも覚え、聊か心細き感有之候段から、貴兄等夙に此点に御着眼被下、或は慈母的に、或は厳父的に御教示下候段、一方ならず嬉しう存じ候。尚此後とも御心付の廉は、御遠慮なく御小言被下、以て小生の真知己と成れん事、不堪希望候。」

この小波の羽衣に対する解答でおおかたの考え方がわかるはずである。子どもたちの友達でありたいという小波の気持、よい兄さんでありたいという考え方は、小波が「お伽噺のおじさん」と呼ばれる理由にもなるわけである。それは子どもたちの純真さ、あるいは子どもらしさを素直に伸ばしてやりたいという考え方であったのである。これは明治三十一年のことであった。またこの「メルヘンに就いて」は雑誌「太陽」に載ったものである。

小波の「世界お伽噺」は明治三十一年十二月に「日本お伽噺」全二十四編の完結後に書かれたものである。巌谷小波の出世作「こがね丸」刊行後八年の経過をみている。そして「世界お伽噺」の刊行にあたって、小波はまず、「諸君！」と呼びかけて「世界お伽噺」の序を第一編「世界の始」に次のように掲げている。この「世界お伽噺」の刊行にあたって、小波の根底にある考え方は羽衣の質問に答えた、あの考え方が流れていたわけである。「世界お伽噺」は、博文館から明治三十二年一月より刊行されたのである。

さて、ここにその序を引用しておこう。

「（前略）此度の世界お伽噺は、従来の昔噺、お伽噺と異ひ、総て材料を世界各国から取らなければ成りません。而も此種の著述書は、日本にまだ類が無いのですから、自然原書に付いて取調べなければ成らず、是吾々浅学の者には頗る困難な事業で、所謂荷の勝った仕事ですが、幸ひに先輩諸君の御助力を得て、此本邦未発の編著に、着手することになりましたのは、寔に過分の光栄に存じます。（中略）一体お伽噺には、種々な種類がありまして、独逸語で云ひますと、メルヘン（奇異な話を小説的に書いた物）ファーベル（教訓の意を寓した比喩談）ザァゲ（古来の言ひ伝へ）エルツェールング（歴史的物語）の四種に成り、そして其中のザァゲが、フォルクスザァゲ（民間の口碑）ヘルデンザァゲ（勇士の口碑）と、かう二ツに別かれて居ます。

日本には、まだ適当な訳語がありませんから、通例は只お伽噺と云って居りますが、其中に自ら種類があります。彼の少年世界の巻頭に、私の始終書いて居りますのが、まづメエルヘンに属するもの、又それに教訓の意味を含ませた『新伊蘇普物語』のやうなものが、即ちファーベル。又『日本昔噺』は、大抵ザァゲを集めたもので、『舌切雀』、『桃太郎』の類を、所謂フォルクスザァゲといひ、『八頭大蛇』、『羅生門』などは、立派なヘルデンザァゲです。それから『日本お伽噺』に成ると、ヘルデンザァゲが四分に、エルツェールング六分で、ただ『姥捨』と『羽衣』とがフォルクスザァゲになって居ります。

さて今度の『世界お伽噺』、これは何に層するかといひますと今一概には云へませんが、主としてザァゲを取り、それにメエルヘンの有名なものが補って、全部を完成させる心算です。尤も其中には、エルツェールングの混る事もありましゃう。けれどもそれは、必ずしも正史には依りませ

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com